

# 令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月21日(月)

会場:甲奴健康づくりセンター ゆげんき

参加者数:37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>上川地区には81世帯、約200人が住んでおり、未就学児が9人いる。今年も2人生まれる予定である。「ふるさと上川夢の会」が30年もの間、文化祭やカーターピーナッツ収穫祭などで活動しており、そのような親の姿を見た子どもたちが活動を継いでいる。今後、継続していきたいが、市の考えを聞きたい。</p>	<p>地域内に子どもが増えることは喜ばしく、継続して、地域の特性を生かした取組を実施されてきた結果である。以前から、甲奴地区では、各地域で積極的な取組をされており、自治振興のモデル地域ともいえる。本市は、「子育て日本一のまち」をめざし、子育て支援策を充実させてきた。引き続き、地域の皆さんと連携しながら、魅力のある地域を発信し、定住人口や関係人口の増加につながる取組をしていきたい。</p>	
<p>甲奴地区では、こうぬカーター通りに、「道の駅」の設置を検討され、平成15年に完成し、休憩所としてのみ活用されている状況である。自己調査の結果、1日40名程度が利用され、主に、トイレ休憩や自動販売機のほか、元気サロンや市民バスの停留所といった公的な活用もされていた。最終的には、こうぬカーター通り駅を活用して、ブルーベリー等の特産品を販売するなど、地域活性化の拠点にしたい。しかし、築20年以上が経過し、施設全体が老朽化している。現在、女子野球関係者が遠方から来訪されていることから、特に、トイレの洋式化などの改修をしてほしい。</p>	<p>こうぬカーター通り駅は、来年4月からコミュニティセンターとして利用するために、現在、事務的な整理を進めている。そして、甲奴コミュニティセンターは、支所の耐震工事のため、10月から支所の仮庁舎として活用していく。施設の老朽化に伴う改修やトイレの洋式化などについては、現在、必要経費の見積りを依頼しているところであり、今後、相談させていただきたい。</p>	
<p>農家の高齢化などにより、農地の維持が難しく、荒廃している箇所も多い。圃場は県や国の補助金で整備されているため、転用ができないともいわれるが、土地を宅地化するなど非農地として活用できるかもしれない。人口減少や高齢化の中、水田は、10ヘクタール以上でないと経営が成り立たないのが現状であり、この山間地では確保できない。昔の営農計画は時代とともに変わっていることから、例えば、特例として、市が認めれば許可できるようにしてほしい。</p>	<p>・農業従事者の高齢化や、農作物の生産条件が悪くなる中で、農地の荒廃化が進み、管理が行き届かなくなる状況にある。農地法等の縛りがあり、なかなか転用できない。市農政課や農業委員会に相談してほしい。 ・圃場は、法律に基づき国の財源を用いて整備されたが、時代の流れとともに農業のあり方も変化し、圃場を有効活用するため、規制緩和を求める声もある。現在は、農業委員会が審査し、認められた部分について利用できる仕組みである。有効的に利用できるように、引き続き、法律の見直しや規制緩和について、国や県に対して求めていきたい。</p>	
<p>田んぼダムに関して、田んぼが荒廃しており、水を溜めることが難しい。また、イノシシにより、田んぼの形が変わっていくことで、ダムとしての活用が難しい。農地を管理できているからこそ、田んぼダムとして活用できる。周辺地域では、鳥獣被害に遭いながらも農地を一生懸命守っている。農地を守る高齢者の人たちが困っていることに耳を傾けて、それを解決していく必要があるのではないかと。空き家が増えている、保育所やプールが無くなるなど、地域の活力が失われていることは事実である。中心部がよくすることは重要であるとも思うが、合併した周辺地域が元気になるための方法を模索してほしい。</p>	<p>各地域における幸せの概念は異なっており、市街地の役割、各町の役割など、地域の個性や特性を考えながら、地域づくりを進めていくことが重要である。持続可能な地域にするためには、課題を認識し、その地域に住んでいる人が生きがいや幸せづくりを創造しながら、生活をしていく必要がある。田んぼの荒廃によっては、田んぼダムとして活用できないかもしれないが、地域でできる範囲の治水対策を進めて、流域全体で地域を守っていく取組は、今後、求められることであり、本市もその方向で進めていく。引き続き、関係機関と連携した取組を進めていく。今後の地域づくりについても、いろいろと向き合っていきたい。</p>	
<p>民生委員の欠員に困っている。多くの方々にご協力をいただいたが、16人の定員に対して14人であり、2地区に欠員が出ている。これまでも欠員はあったが、今までと状況が変わっていると思う。この懇談会に参加しているの方々にお伝えしたい。民生委員のPRが足りていないかもしれないが、住民の方による応援が必要である。もっと、民生委員のことを知っていただきたい。</p>	<p>民生委員のなり手不足は、他の地域でも見受けられる。しかし、市全体を見ると、多くの民生委員の皆さんに役割を果たしていただいており、このことは、他自治体と比べて珍しい状況である。引き続き、地域の人材発掘を行いながら、民生委員お一人の責任ではなく、地域全体で後押しできるような仕組みを模索していきたい。</p>	
<p>県道梶田三良坂線の改良について要望している。県が所管していた時は、部分的な改良を進めて、待避所を数か所設置するなどの対応をされていた。しかし、市の管理になってからは、全体改良が優先され、部分改良が行われていない。</p>	<p>梶田三良坂線は県道であるが、権限移譲により、市が管理している。県が管理していた時は、部分的な整備を進めていた。しかし、市としては、重要路線として、全体改良を進める方針である。改良困難な部分もあり、すぐにできないが、引き続き改良を進めていく。</p>	

## 令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月21日(月)

会場:甲奴健康づくりセンター ゆげんき

参加者数:37人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>ジミー・カーターシビックセンターは1994年にオープンして、来年で30周年を迎える。そして、カーター元大統領は現在98歳で、来年は100歳を迎えられる。これまで、甲奴地区では、中学生を中心にアメリカス市へのホームステイを行い、約800人以上が経験している。その子どもたちは、大人になって、都会や地元で活躍している。これらの成果は、三次市の宝であり、そのような方向へと導いていただいた大きな力となっているのがカーター元大統領であると思う。また、カーターピーナッツが特産品となっているが、その種もカーター元大統領からいただいたものである。来年、カーター元大統領に感謝し、記念イベントを開催したいが、指定管理者や国際交流協会だけでは限られたことしかできない。市からもご支援をいただきたい。</p>	<p>昨年9月、アメリカ合衆国ジョージア州にあるカーターセンター内で開催された鐘楼堂完成式典に、三次市民を代表して、議長とともに出席させてもらった。その時に鳴らされた鐘の音色は、カーター氏の平和への思いを感じた。また、甲奴地区の皆さんのいろいろな思いや活動が結びつくと、改めて実感させられるものであった。市としては、30周年を記念に何ができるのか検討し、皆さんの思いを未来に継承すべく、今後の国際交流につなげていきたい。カーターセンター内のエアコンの改修などを進めているが、甲奴地区の皆さんの象徴でもあるジミー・カーターシビックセンターのために、できることから進めていく。</p>	
<p>20年くらい前に、甲奴地区の古い歌を調査した。土地ごとのかげがえのない物事を今は尋ねる人もいない。今後もいなくなっていく。地域の古いことわざや言葉などを調べて、記録に残してほしい。自分の地域でも高齢者が減少しており、聞いていくことができる方がおらず、継承していくことが困難になっている。</p>	<p>地域にある古い歌や言葉を次の時代へ継承していくことは大切なことである。それを知った人がだんだんと少なくなっていることも事実であり、何らかの方法で残すことができればと思う。皆さんのご協力のもと、一緒に考えていきたい。</p>	